

(4) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

概要

赤潮発生件数は17件で昨年比（25件）で70%以下に減少した。本年は例年と同様、珪藻類による赤潮が構成種別延べ発生件数26件のうち20件と多かった。構成種は*Skeletonema* spp. が最も多く、次いで*Thalassiosira* spp.、小型中心目珪藻類、*Ceratium furca*であった。*Ceratium furca*による赤潮の発生は、2004年以来である。有害・有毒種では9-10月に*Karenia mikimotoi*による赤潮が発生した。この赤潮では、大阪湾南部において蓄養魚類および天然魚介類の斃死が確認された。*K. mikimotoi*は漁港内で最高72,000 cells/mlを確認した。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ (<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>)で公表した。

調査方法

1. 調査定点
大阪湾全域20定点（浅海定線調査に準じる）、もしくは東部海域14定点（水質監視調査に準じる）
2. 調査期間と実施日
2020年1月～12月について、貝毒警戒時期である2～5月、赤潮多発期である6～9月は概ね週1回、それ以外の月は月2回
3. 調査項目
水色、透明度、プランクトン細胞数等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」（19トン、680 kw×2基）

調査結果

表1、2、3、4のとおり。

担当者

田中咲絵、秋山 諭、中嶋昌紀

表1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	10	2	4	1	17
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	1	1

表2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	1	1	0	1	3	3	3	3	4	1	1	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

(注)月をまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種	発生件数(件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	9
2	<i>Thalassiosira</i> spp.	3
	小型中心目珪藻類	3
	<i>Ceratium furca</i>	3
3	<i>Chaetoceros</i> spp.	2
	<i>Pseudonitzschia</i> sp.	2
4	<i>Karenia mikimotoi</i>	1
	小型渦鞭毛藻類	1
	<i>Leptocylindrus danicus</i>	1
	<i>Mesodinium rubrum</i>	1
	計	26

(注1)最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注2)複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理番号	被害時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額(千円)	最高細胞密度(cells/mL)
1	9/14-10/14	<i>Karenia mikimotoi</i>	蕃養 魚類斃死 シマアジ、カンパチ、ブリ、マダイ等	不明	22,000	7.2 × 10 ⁴
			蕃養 魚類斃死 マダコ、カサゴ、ヒラメ、マダイ、ハモ等	不明	1,000	